

島根県立大学 国際関係学部 小論文対策: 完全攻略マニュアル

～「知的な怠惰」を脱し、国際社会の複雑さを解読する～

島根県立大学の小論文は、単なる作文能力を測るものではありません。大学側は、「複雑な事象を多角的に分析し、自分なりの論理で再構成できる知力」を求めています。このガイドでは、合格のために不可欠な4つの核心ポイントを解説します。

1. 核心となる思考: 高坂正堯の「三つの体系」をマスターせよ

本学部の入試を貫く最大のフレームワークは、国際政治学者・高坂正堯氏の理論です。あらゆる問題を以下の三層で捉える練習をしてください。

1. **力の体系(Power)**: 軍事力、安全保障、物理的な支配力、法による強制力。
2. **利益の体系(Interest)**: 経済的繁栄、貿易、資源、供給網(サプライチェーン)、人々の生活の豊かさ。
3. **価値の体系(Value)**: 宗教、歴史認識、民主主義、人権、そして各民族が持つ独自の「常識」。

【合格への鍵】

小論文の最後で「話し合いが大事だ」と書くだけでは不十分です。「利益のレベルでは協力可能だが、価値のレベルで相容れない場合、いかに力のレベルで緊張を管理すべきか」といった、三層を使い分けた論述が高評価に直結します。

2. 禁句と戒め: 「知的な怠惰」と「善玉・悪玉論」の排斥

課題文(令和7年度学校推薦型など)でも明示されている通り、問題を単純化することは「知的な怠惰」として厳しく否定されます。

- ・ **避けるべき思考**: 「〇〇国が悪いから戦争が起きる」「指導者が変われば平和になる」
- ・ **求められる思考**: 「対立の背後には、構造的な利益の衝突や、歴史的に形成された正義の相違(価値の体系)がある」

【対策】

ニュースを見る際、「どちらが悪いか」を考える前に、「双方がどのような正義(常識)を掲げているか」を書き出すトレーニングをしてください。

3. 地政学的リテラシー: 歴史を現代の「武器」にする

一般選抜(国際関係コース)では、東アジアの現代史が頻出します。

- ・「力の真空」という概念: 日本の敗戦により旧支配地から権力が消え、そこに米ソが入ったことで分断が起きたという因果関係。
- ・「境界線」の変容: かつての物理的な国境線(三十八度線など)が、現代ではデジタルや経済のネットワーク上の境界線へと再定義されているという理解。

【対策】

世界史や政治・経済の知識を単なる暗記で終わらせず、「この歴史的事件が、現代の〇〇という問題の根源(起源)になっている」と接続して説明できるようにしましょう。

4. アイデンティティの問い: 「日本人」という自画像を描き直す

総合型選抜などで問われるテーマです。「自分」と「他者」の境界線を問い直す力が必要です。

- ・自画像とは: 鏡に映る自分を見るように、他者(外国人、移民、残留邦人など)との関わりを通じて初めて、自国の輪郭(日本人とは何か)が明らかになるという考え方。
- ・制度の理解: 戸籍や国籍という「制度」が、いかにして「日本人」という排他的な枠組みを作ってきたかという批判的視点。

5. 本番で差をつける「設問別・解答戦略」

問 1・問 2: 200 字要約・説明

- ・戦略: 本文のキーワードを「パズル」のように繋ぐだけでは不十分です。
- ・コツ: 「A という理由により B という事象が起き、結果として C という構造が生まれた」という因果関係のレトリックを構築してください。

問 3: 600 字総合論述

1. 導入(100 字): 課題文の核心を自分の言葉で定義する。(例: 境界線が再定義されている現代において...)
2. 具体例(200 字): 自分の知識から具体的な事例(半導体摩擦、ウクライナ、団地の共生など)を一つ挙げる。

3. **分析(200字)**: その事例を「力・利益・価値」の三層フレームワークで解剖する。
4. **結論(100字)**: 理想論ではない「緊張の管理」や「知的労働の継続」としての平和を提示し、学びへの意欲で締める。

最後に: 指導者・保護者の方へ

この入試は、生徒が「自分の正義が唯一絶対ではない」と気づくプロセスそのものです。添削の際は、文章の美しさよりも**「問いの複雑さをそのまま引き受けているか」**を評価してください。